

4. 法院職員定員令中改正ノ件

0102

接 受 昭 和 十 年 十 月 八 日	第 外 號	決 裁 昭 和 年 月 日	淨 書 印 行	校 合 印 行	送 發 印 行
起 案 昭 和 十 年 十 月 八 日		施 行 昭 和 十 年 十 月 八 日	完 結 昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日	昭 和 年 月 日

管理局長

地方課長不在

電報集

下城属

新設河合理事官邸

御依頼ノ受テ居リニ法院定員令本日

4/15





F

起	接	管	電 報 集
案	受	理	
昭 和 十 年 十 月 十 六 日	昭 和 十 年 十 月 十 六 日	第 三 三 三 號	
施 行	決 裁	昭 和 十 年 十 月 十 六 日	地 方 課 長
昭 和 十 年 十 月 十 六 日	昭 和 十 年 十 月 十 六 日	昭 和 十 年 十 月 十 六 日	
完 結	書 淨	昭 和 十 年 十 月 十 六 日	地 方 課 長
昭 和 十 年 十 月 十 六 日	合 校	昭 和 十 年 十 月 十 六 日	
	送 發	昭 和 十 年 十 月 十 六 日	
		昭 和 十 年 十 月 十 六 日	

台湾川村審判官事務官此

法院職員定員令本日官報ニ公布スル

檢察官補充ノ命令アリシヲ以テ十日開議ニ上提十六日頃迄ニ公布スル

(起案川紙三號ノ三)





甲

管地第三三二號	決裁	昭和十年七月卅日	完結	昭和十年七月
接	昭	和	十	年
受	昭	和	十	年
起	昭	和	十	年
案	昭	和	十	年
昭	和	十	年	七
十	年	七	月	十
八	日			

本多書記官擔任

管理局長

地方課長

主任

事務官

文書課長

秘書課長

司計課長

大臣

次官

政務次官

參與官

請議案

臺灣總督府法院職員定員令中改正ノ件

拓務省

臺北地方法院花蓮港支部新設、地方法院判官負擔件數ノ緩和及臺北地方法院板橋出張所新設ノ爲兼職職員ヲ増置スルノ要アルニ由リ本令中改正ノ必要ヲ認ム仍テ別紙勅令案ヲ提出ス

右閣議ヲ請フ

昭和十年七月三十日

拓務大臣

閣内

閣總理大臣 宛

完結

件昨多度檢査  
一増員ルルカ  
不欠員トシテ  
凡法律制局  
分リ只員檢査  
補正送付  
行司會ス  
ト送付  
科年十月十日  
第百九十九号  
月十者官報掲載

朕臺灣總督府<sup>法務</sup>職員定員令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和十年十月十五日

内閣總理大臣

拓務大臣

勅令第三九七五號

拓務省

臺灣總督府法院職員定員令中左ノ通改正ス

第一條第一項中「判官 奏任 四十三人」ヲ「判官 奏任 四十七人」ニ、「檢

察官 奏任 二十二入」ヲ「檢察官 奏任 二十三入」ニ改ム

第二條中「書記 專任百九十二人」ヲ「書記 專任二百人」ニ、「通譯 專任五

十一人」ヲ「通譯 專任五十四人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(並美濃紙十行インク止全)



理由

臺北地方法院花蓮港支部設置ニ件ヒ判官二人檢察官一人書記七人及通譯三人、地  
方法院判官負擔件數ノ緩和ヲ圖ル爲判官二人、臺北地方法院板橋出張所設置ニ件  
ヒ書記一人判官四人檢察官一人書記八人及通譯三人増員ノ必要アルニ由ル

拓務省

(並美濃紙十行インク止全)



說明

一、臺北地方法院花蓮港支部設置ニ伴ヒ判官二人、檢察官一人、書記七人及通譯三人ヲ増員ス

臺灣ニ於テハ内地ニ比シ司法機關ノ充實未ダ完全ナラズソノ爲審理ノ適正進捗、訴訟費用ノ輕減等ノ點ニ於テ欠クル點ナシトセズ。就中東部花蓮港及臺東方面ハ近時刑事事件漸次増加ノ傾向ニアルニ拘ラズ同地方ノ司法管轄ハ臺北地方法院及臺北地方法院宜蘭支部ニ屬シ該地方民ノ不便甚シ依テ花蓮港街ニ花蓮港及臺東ノ兩廳ヲ管轄スル法院支部ヲ設置シ單獨部事件、予審事件及合議部第一審事件ヲ取扱ハシメントス。  
此處之司法管轄區域及人員配置ハ  
官ノ書記及通譯三人ヲ増員配置セリトス

二、地方法院判官負擔件數ノ緩和ヲ圖ル爲判官二人増員ス

拓務省

本島ニ於ケル民刑事事件ノ當事者ノ大多數ハ本島人ナル故訴訟手續ニ於テ通譯ヲ要シ内地ニ比シ審理ニ手數ヲ要スルニモ拘ラズ本島司法官ノ定員少ク不利不便尠カラザルヲ以テ漸次判官檢察官ノ充實ヲ圖ル方針ナル處臺北地方法院ニアリテハ今回花蓮港支部設置ニヨリ支部ヲ管轄スルコトトナレルヲ以テ判官一人又臺南地方法院ニアリテハ二支部ヲ管轄シ判官ノ出張應援ノ要アルヲ以テ判官一人ヲ増員セントス。  
判官ノ負擔件數多ク且

三、臺北地方法院板橋出張所新設ノ爲書記一人増員ス  
最近本島人ノ法律思想頓ニ發達シ不動産ニ關スル權利ヲ確得スル登記制度ノ必要ヲ痛感スルニ至レリ。然レドモ現在登記所ノ數少ク管轄區域廣大ニシテ民衆ノ不便少カラザルヲ以テ漸次樞要ナル地ニ之ガ増設ヲ圖ル方針ナリ、昭

タイプライター用紙

(日本標準規格 B. 4)



和十年度ニ於テハ人口約十方、總面積二十一万里ヲ擁スル臺北州海山郡板橋  
庄ニ一箇所増設シ此處ニ配置スル爲書記一人ヲ増員セントス

拓務省

マイコンライタ用紙

(日本標準規格B4)

M-0036



參照

臺灣總督府法院職員定員令

第一條 臺灣總督府法院判官臺灣總督府法院檢察官各職ノ定員左ノ如シ

高等法院

長 勅任 一人

判官 奏任 九人

高等法院檢察局

檢察官長 勅任 一人

檢察官 奏任 三人

地方法院

長 勅任又ハ奏任 三人

判官 奏任 四十三人

地方法院檢察局

檢察官長 勅任又ハ奏任 三人

檢察官 奏任 五十二人

高等法院判官ニシテ上告部判官タルモノハ之ヲ勅任ト爲スコトヲ得

勅任タル高等法院上告部判官、地方法院長及地方法院檢察官長ハ

選シテ四人ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 前條ニ掲グルモノヲ除クノ外臺灣總督府法院職員ノ定員左

ノ如シ

書記長 一人

書記 專任百九十二人

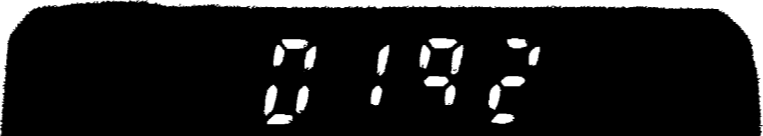
通譯 專任五十一人

法院職員定員令中定員改正要旨

官名	官制定員		十年年度 豫算定員	官制定員増減理由
	現在	増×減		
地方法院 判官	四三	四	六〇 (内四勅任)	花蓮港支部設置及判官負擔件數緩和 ノ爲増
地方法院檢察官	二二	一	三〇 (内三勅任)	花蓮港支部設置ニ伴ヒ増
書記	一九二	八	二〇五	七人花蓮港支部設置ニ伴ヒ 一人法院橋出表所設置ニ伴ヒ増
通譯	五一	三	五四 (内二兼任)	花蓮港支部設置ニ伴ヒ増 (増員豫算全部九月)

備考

- 一、判官豫算定員中一三人ハ高等法院ノ長及判官並ニ地方法院長ノ定員トス
- 二、檢察官豫算定員中七人ハ高等法院ノ檢察官長及檢察官並ニ地方法院檢察官長ノ定員トス
- 三、書記豫算定員中五人ハ供託局書記定員トス



説明書

第一、臺北地方法院花蓮港支部設置及地方法院判官員  
擔件數緩和、爲判官四人檢察官一人書記七人及  
通譯三人増員

(1) 臺北地方法院花蓮港支部設置ニ伴ヒ判官二人、檢察  
官一人、書記七人及通譯三人増員

近時本島文化、向上ニ伴ヒ諸般、行政施設愈々充實セ  
ントシツツアルニ際シ司法機關、充實之ニ伴ハザル  
嫌アリテ第一審裁判所トシテ三地方法院及四支部ア  
ルノミニシテ其ノ管轄區域廣大ニ過グルノミナラズ  
年々司法事件數増加シ複雑化セントスルノ傾向アル  
ニ鑑ミ之ヲ充實シ審理ノ適正進捗ト訴訟費用ノ輕減  
ヲ圖ルハ寔ニ緊要ナリトス就中東部花蓮港及臺東方

面ハ近時産業ノ開發ト人口ノ増加ニ伴ヒ民刑ノ各種  
事件亦漸次増加ノ傾向ニ在ルニ拘ラズ從來同地方ノ  
司法管轄ハ單獨部事件ニ在リテハ臺北地方法院宜蘭  
支部、合議部事件ニ在リテハ臺北地方法院ニ屬シ當  
事者ハ多額ノ費用ト日時ヲ要スルノ外訴訟ノ遲延、  
長期ノ勾留等裁判及檢察ニ及ボス影響甚大ナルモノ  
アリ

依テ花蓮港街ニ花蓮港及臺東ノ兩廳ヲ管轄スル法院  
支部ヲ設ケ其ノ構成ニ付テハ交通不便ヲ斟酌シ單獨  
部事件、豫審事件及合議部第一審事件（豫審經由事  
件ヲ含ム）ヲ取扱ハシメントス

右ニ伴ヒ同法院支部ニ配置スベキ地方法院判官二人  
、檢察官一人、書記七人及通譯三人ヲ増員配置セン

トス尚合議部ノ構成ニ付テハ臺北地方法院ヨリ判官ヲ出張應援セシムル豫定ナリ

(四) 地方法院判官負擔件數ノ緩和ヲ圖ル爲判官ニ人増員本島ニ於ケル民刑訴訟ノ當事者ノ大多數ハ本島人ナルヲ以テ訴訟手續ニ於テ通譯ヲ介セザルベカラザル關係上審理ニ時間ヲ要スルハ勿論其ノ真相ヲ擱ムニ困難ナルハ到底内地ノ比ニ非ザルニ拘ラズ地方法院判官及檢察官ノ負擔件數多キニ過ギ特ニ判官ニ在リテハ充分ノ定員ナキ爲部ノ構成上地方法院判官ハ總テ合議部ト單獨部トヲ兼ネシメ其ノ事務分擔ノ均衡ヲ保持シツツアルモ事實上常時上下兩審相互兼補シ部ノ構成ヲ爲スガ如キハ裁判ノ威信ヲ保持スル所以

ニ非ザルノミナラズ合議部ニ於テ事件毎ニ前審干與者ヲ生ジ交替セシムルノ要アルニ至リ不利不便尠カラザルナリ

依テ將來漸次地方法院判官及檢察官ノ充實ヲ圖リ紋上ノ缺陷ヲ是正セントスル方針ナル處臺北地方法院ニ在リテハ前述ノ花蓮港支部設置ニ伴ヒ合議部事件幾分減少スベシト雖モ現在既ニ新竹及宜蘭ノニ支部ヲ管轄スルノ外新設花蓮港支部ヲ管轄スルコトトナリ部ノ構成上之等三支部ニ對シ判官ノ出張應援ヲ必要トシ又臺南地方法院ニ在リテハ他ノ地方法院ニ比シ判官ノ負擔件數多ク且嘉義及高雄ノニ支部ニ於ケル部ノ構成上隨時判官ノ出張應援ノ要アルニ鑑ミ差當

リ臺北、臺南、兩地方法院ニ判官各一人ヲ増員配置  
シ幾分ニテモ判官ノ負擔過重ノ緩和ヲ圖リ以テ司法  
事務ノ充實ヲ期セントスルモノナリ

参考資料目次

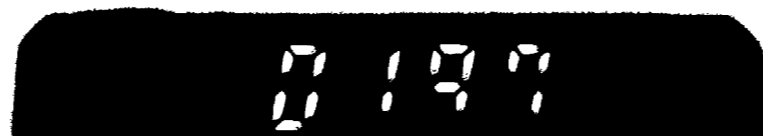
- 一、各法院及支部職員定員
  - 二、花蓮港支部設置後、各地方法院及支部管轄區域等
  - 三、花蓮港支部設置後ニ於ケル法院ノ管轄面積及人口ニ對スル内地及朝鮮裁判所トノ比較
  - 四、判官取扱件数
  - 五、檢察官取扱件数
  - 六、判官一人當負擔件数
  - 七、檢察官一人當負擔件数
  - 八、司法省取定判事取扱件数ニ依ル判官所要人員
  - 九、司法省取定檢事取扱件数ニ依ル檢察官所要人員
  - 一〇、法院判官及檢察官定員並ニ部ノ構成狀況
- 
- 二、花蓮港支部設置ニ伴フ昭和十年年度豫算
  - 三、花蓮港支部新營工事豫算各目明細書

参考一  
各法院及支部職員定員

區分	判官 (長官)	檢察官 (長官)	書記長	書記	通譯	備考
高等法院	一〇	四	一	一四	二	
同 檢察局				四	二	
臺北地方法院	一七	八	一	一〇	四	書記四一人、內出張所二配置一四人、 書記增員一人、八板橋出張所二配置
同 檢察局						
新竹支部	二	二		八	二	
同 檢察局				二	二	
宜蘭支部	一	二		五	一	
同 檢察局				二	一	
花蓮港支部	二	一		五	二	

計	同 檢察局	臺中地方法院	同 檢察局	臺南地方法院	同 檢察局	嘉義支部	同 檢察局	高雄支部	同 檢察局
X 五六		九		X 一〇		三		四	
X 一九	X 一					四	五	三	二
一									
X 八九				三	六	六	三	二	三
X 五				六	六	九	三	二	三
三一				六	三	二	二	三	二
				大書記三人、內出張所配置一人					

備考  
一、X印八十年度増員トス  
二、花蓮港支部及檢察局、書記、配置八十年度増員七人、外現在花蓮港出張所書記一人  
(台北地方法院出張所書記四人、内一人)ヲ併セ八人トナル





参考二

花蓮港支部設置後、各地方法院及支部管轄區域等

法院	管轄面積	人口	管轄區域
台北地方法院 合議部	一、一九〇	一、八九五、八九一	台北市、新竹州、台東廳及花蓮港廳一四
台北地方法院 單獨部	二七二、八	一〇、六七、八三八	台北市、內宜蘭、羅東、蘇澳等ヲ除キタル一四
新竹支部	二〇七、七	四七五、五一八	新竹州、內桃園、大溪、中壢各郡一四 新竹州、內桃園、大溪、中壢等ヲ除キタル一四
宜蘭支部	一一三、七	一八六、四二九	台北市、內宜蘭、羅東、蘇澳各郡各管内一四
花蓮港支部	五二四、八	一六六、一〇六	台東、花蓮港兩廳各管内一四
台中地方法院	四七八、八	一、一二五、五三五	台中州管内一四
台南地方法院 合議部	七三四、五	二、〇三九、〇八一	台南州、高雄州及澎湖廳一四
台南地方法院 單獨部	一〇〇、四	四八四、八二六	台南州、內新豐、新化、曾文、北門各郡一四
嘉義支部	二五一、一	七九四、一〇〇	台南州、內嘉義、斗六、虎尾、北港、東石、及新營、各郡各管内一四
高雄支部	三八三、〇	七六〇、一五五	高雄州、澎湖廳各管内一四

計	二、三三二、三	五、〇六〇、五〇七	
---	---------	-----------	--

備考

- 一、面積及人口ハ昭和八年末現在ニ依ル
- 二、從前ノ管轄及面積等ハ本表中花蓮港支部ヲ宜蘭支部ニ加ヘタルモノトス



参考三

花蓮港支部設置後ニ於ケル法院ノ管轄面積及人口ニ對スル内地及朝鮮裁判所トノ比較

朝鮮	内地	臺灣		裁判所
		地方裁判部	地方法院單部及支部	
地方法院	地方裁判所	區裁判所	地方法院	裁判所數
一	五	二八	三	八
一四、二六五	二七、一〇〇	二、三三二	二、三三二	總面積
二、〇五八	六七、五四四	五、〇六〇	五、〇六〇	總人口
一、二九七	五三一	九九	九九	平均管轄面積
一、九一四	一、三二四	二、三九	一、六八三	平均人口
				摘要

備考

- 一、臺灣ノ人口ハ昭和八年末官房調査課ノ調査ニ依ル
- 二、内地裁判所數及人口ハ昭和八年司法省調査課發行司法一覽ニ依ル

- 三、朝鮮法院數ハ昭和八年九月現在朝鮮總督府發行朝鮮司法一覽ノ人口ハ昭和五年國勢調査ニ依ル

参考四

判官取扱件数

(昭和七八九年新受件数)

計	高雄支部	嘉義支部	台南地方法院	台中地方法院	計	花蓮港支部	宜蘭支部	新竹支部	台北地方法院	法院別	
										七年	八年
4626	0	1284	3342	1799	4256		634	1025	2597	7	軍政部民事第一審
4318	1335	1112	1871	1752	3982		537	798	2647	7	軍政部民事第一審
3866	1367	1182	1317	1625	3037		438	530	2069	7	軍政部民事第一審
4270	1351	1193	2177	1725	3758	(186)	(359) 536	984	2438	7	軍政部民事第一審
1128	0	378	750	422	1643		249	279	1115	7	軍政部民事第一審
997	240	378	379	392	1288		192	290	806	7	軍政部民事第一審
1010	336	345	329	498	1335		185	407	743	7	軍政部民事第一審
1045	288	367	486	437	1422	(93)	(715) 209	325	888	7	軍政部民事第一審
793	0	284	509	489	1071		344	213	534	7	軍政部民事第一審
1503	643	470	390	703	862		168	251	443	7	軍政部民事第一審
1583	798	377	408	828	1345		(235) (447) 240	422	688	7	軍政部民事第一審
1293	720	377	436	673	1099	(100)	240	295	555	7	軍政部民事第一審
76	0	25	51	19	79		14	7	58	7	軍政部民事第一審
68	34	1	33	19	73		21	7	45	7	軍政部民事第一審
51	35	0	16	31	56		10	13	33	7	軍政部民事第一審
66	35	9	33	23	69	(11)	(4) 15	9	45	7	軍政部民事第一審
463	0	141	322	252	443			98	345	7	軍政部民事第一審
448	0	176	272	297	461			100	361	7	軍政部民事第一審
449	87	143	219	280	402			92	310	7	軍政部民事第一審
453	44	153	271	276	435	(7)		97	(322) 339	7	軍政部民事第一審
118	0	26	92	36	110			8	102	7	軍政部民事第一審
105	0	23	82	38	101			14	87	7	軍政部民事第一審
139	9	24	106	50	105			8	97	7	軍政部民事第一審
121	5	24	93	41	105	(8)		10	(87) 95	7	軍政部民事第一審
477			477	313	511				511	7	軍政部民事第一審
555			555	273	612				612	7	軍政部民事第一審
594			594	544	671				671	7	軍政部民事第一審
542			542	377	598				598	7	軍政部民事第一審
86			86	46	167				167	7	軍政部民事第一審
96			96	35	126				126	7	軍政部民事第一審
76			76	48	88				88	7	軍政部民事第一審
86			86	43	127				127	7	軍政部民事第一審
7876	2443	2123	4124	3595	7614	(405)	(619)		(5070)	7	軍政部民事第一審
							1009	1520	5085		均平線

備考

一、括弧内ハ花蓮港支部設置後ノ件数異動見込ヲ示ス  
 二、臺南ノ計ト三ヶ年平均ト符合セザルハ高雄支部開庭ガ昭和八年ナルヲ以テ同支部ノ平均ハ二ヶ年平均ナルニ由ル

合計	12681
	10.052
	8.528
	9.754
	3.193
	2.677
	2.843
	2.804
	2.373
	3.068
	3.756
	3.066
	174
	140
	138
	157
	1,158
	1,206
	1,131
	1,165
	264
	244
	294
	367
	1,301
	1,440
	1,809
	1,517
	289
	257
	212
	256
	19,086

参考五

檢察官取扱件数

(昭和七、八、九年檢察官新受處分件数)

廳名	昭和七年	昭和八年	昭和九年	平均	摘要
臺北地方法院	七、六一九	六、七九九	六、四四一	六、九五三	
新竹支部	二、五一九	二、五一七	二、六二七	二、五五四	
宜蘭支部	三、二五六 (一、〇一九)	三、二四五 (一、二六六)	一、九八三 (一、一四三)	二、一六一 (一、一四三)	
花蓮港支部	(一、二三七)	(九七九)	(八四一)	(一、〇一九)	
計	一、二、三九四	一、一、五六一	一、一、〇五一	一、一、六六八	
臺中地方法院	四、六八四	五、一四三	五、一五四	四、九九四	
計	四、六八四	五、一四三	五、一五四	四、九九四	
臺南地方法院	六、二〇一	三、二一八	二、七九五	四、〇七一	
嘉義支部	三、〇五三	三、四〇六	二、九八九	三、一四九	
高雄支部		三、三四二	四、一六三	三、七五三	

合計	計
二六、三三二	九、二五四
二六、六七〇	九、九六六
二六、一五二	九、九四七
二六、三八四	九、七二二

備考

一、括弧内ハ花蓮港支部設置後ノ件数異動見込ヲ示ス  
 二、台南ノ計トシテ平均ト符合セザルハ高雄支部ノ開廳カ昭和八年ナルヲ以テ同支部ノ平均ハ二ヶ年ノ平均ナルニ依ル

参考六

判官一人當負擔案件數

法院名	現		北港支那設置後		摘 要
	民事事件數	配置定員一人當負擔件數	民事事件數	配置定員一人當負擔件數	
臺北地方法院	五〇八五	一七	五〇七〇	一八	判官増員一人
新竹支部	一五二〇	三	一五二〇	二	
宜蘭支部	一〇〇九	一	六一九	一	
花蓮港支部			四〇五	二	判官増員二人
計	七六一四	二〇	七六一四	二三	
臺中地方法院	三、五九五	九	三、五九五	九	
計	三、五九五	九	三、五九五	九	
臺南地方法院	四、二二四	一〇	四、二二四	一一	判官増員一人
嘉義支部	二、一三三	三	二、一三三	三	
高雄支部	二、四四三	四	二、四四三	四	

計	合計
七、八七六	一九、〇八五
一七	四六
四六三	四一五
七、八七六	一九、〇八五
一八	五〇
四三八	三八二

備考

- 一、件數ハ昭和七、八、九年ノ三ヶ年平均ニ依ル
- 二、各地方法院ノ本廳定員中ニハ院長ヲ含ム
- 三、民事事件數ハ非訟事件數ヲ除ク本訴ノミノ件數ニシテ花蓮港支部ノ件數ニハ臺北地方法院及同宜蘭支部ヨリ移管セラルバキ總件數ヲ掲記ス

参考七

檢察官一人當負擔件数

檢察官名	現		花邊港支那設置後		簡 要
	檢察官處分件数	配置定員一人當負擔件数	檢察官處分件数	配置定員一人當負擔件数	
臺北地方法院檢察局	六九五三	八	六九五三	八	
新竹支那	二五五四	二	二五五四	二	
宜蘭支那	二一六一	一	二一四二	一	
花蓮港支那			一〇一九	一	檢察官増員一人
計	一一六六八	一一	一一六六八	一一	
臺中地方法院檢察局	四九九四	五	四九九四	五	
計	四九九四	五	四九九四	五	
臺南地方法院檢察局	四〇七一	四	四〇七一	四	
嘉義支那	三一四九	二	三一四九	二	
高雄支那	三七五三	三	三七五三	三	

計	計
九七二二	九七二二
九	九
一〇八〇	一〇八〇
二六三八四	二六三八四
二六	二六
一〇一五	一〇一五

備考

一、件数ハ昭和七八九年ノ三ヶ年平均ニ依ル  
 二、各地方法院檢察局ノ本局定員中ニハ檢察官長ヲ含ム

参考八

司法省取定判事取扱件数ニ依ル判官所要人員

廳名	審級別	前三年新受件数				平均	司法省取定(依内地)判事人員取扱件数	内地標準上ニテ判事人員	現在判官配置定員
		昭和七年	昭和八年	昭和九年	平均				
台北地方法院	計	六三〇〇	七、五〇五	七、〇三九	七、六一四			(院長共) 二三	(院長共) 二〇
	豫審	七九	七三	五六	六九	五〇		二	
	刑民合議	五五三	五六二	五〇七	五四一	一二五		一〇	
	刑民控訴	六七八	七三八	七五九	七二五				
	刑民單獨	六九九〇	六一三二	五七二七	六、二七九	六二五		一〇	
台中地方法院	計	二、七一一〇	二、八四七	二、九五一	二、八三六	六二五		(院長共) 一三	(院長共) 九
	豫審	一九	一九	三一	二三	五〇		一	
	刑民合議	二八八	三三五	三三〇	三二七	一二五		六	
	刑民控訴	三五九	三〇八	五九二	四二〇				
	刑民單獨	二、七一一〇	二、八四七	二、九五一	二、八三六	六二五		五	

合 計	台南地方法院				
	計	豫審	刑民控訴	刑民合議	刑民單獨
一九、四四三	七、七六七	七六	五六三	五八一	六、五四七
一九、一〇四	八、〇九〇	六八	六五一	五五三	六、八一八
一八、七一一	七、七六八	五一	六七〇	五八八	六、四九九
一九、〇八五	七、八七五	六五	六二八	五七四	六、六〇八
		五〇	一二五	六二五	
(院長共) 五九	(院長共) 二三	一	一〇	一一	
(院長共) 四六	(院長共) 一七				

備考

一、司法省取定ニ依ル判事一人負擔件数ハ左記ノ通ナルヲ以テ其ノ中間ヲ以テ判官所要人員ヲ算出セリ

地方裁判所一〇〇件乃至一五〇件ニ付判事一人、豫審四〇件乃至六〇件ニ付判事一人、外裁判長一人  
 區裁判所五〇〇件乃至七五〇件ニ付判事一人

参考九

司法省取定検事取扱件数ニ依ル檢察官所要人員

廳名	前三年檢察官新受處分件数				司法省取定ニ依ル内地 検事人員増件数	内地ヲ標準トシテ テノ所要人員	現在 配置 定員
	昭和七年	昭和八年	昭和九年	平均			
台北地方法院 檢察官	一二、三九四件	一一、五六一件	一一、〇五一件	一一、二六八件	八〇〇件 (官長共)	一六 (官長共)	一一人
台中地方法院 檢察官	四六八四	五、一四三	五、一五四	四、九九四	八〇〇件 (官長共)	七	五
台南地方法院 檢察官	九、二五四	九、九六六	九、九四七	九、七二二	八〇〇件 (官長共)	一三	九
合計	二六、三三二	二六、六七〇	二六、一五二	二六、三八四	八〇〇件 (官長共)	三六	二五

備考

一、本島ニ於ケル檢察官取扱事件ハ單獨及合議ニ區別シ居ラガルニ付  
 司法省標準検事一人當負擔件数地方裁判所ニ〇〇件乃至三〇〇件  
 區裁判所ハ〇〇件乃至一、二〇〇件ノ標準ヲ以テ算出シ得ガルヲ以テ  
 差當リ右最高標準地方三〇〇件及區一、二〇〇件ノ約二分一即チ八〇〇  
 件ヲ以テ檢察官所要員数ヲ算出セリ





参考一。

法院判官及檢察官定員並ニ部ノ構成狀況

臺灣ニ於ケル民刑訴訟ノ當事者ノ多クハ臺灣人ナルヲ以テ訴訟手續ニ於テ通譯ヲ介セザルベカラザル關係上時間ヲ要スルハ勿論其ノ真相ヲ擱ムニ困難ナルハ到底内地ノ比ニ非ザルニ拘ラズ判官及檢察官ノ負擔件數ハ内地ノ判事及檢事ヨリモ遙カニ多シ且高等法院及地方法院ニ於ケル各部ノ構成ニ付テモ判官定員少キ爲高等法院覆審部判官ヨリ上告部判官ニ、地方法院合議部判官ヨリ高等法院覆審部判官ニ、地方法院合議部及單獨部相互ノ判官ニ夫々兼補ヲ爲サザルベカラザル狀況ニ在リテ判官及檢察官共定員少キヲ遺憾トスル處ナリ之ヲ詳述セバ左ノ如シ

一、判官及檢察官ノ負擔件數

判官及檢察官ノ負擔件數ヲ内地ト比較セバ左ノ如クニシテ地方法院判官及檢察官負擔件數著シク過大ナリ高等法院判官及檢察官ニ付テハ大差ナキモ高等法院ニ於ケル最少限度ノ部ノ構成上現定員ヲ要スルハ當然ニシテ特ニ判官ニ付テハ現定員ニテ支障アルコト左記ニ述ハルガ如シ

判官檢察官負擔件數内臺比較

内地		臺灣	
一人當件數	一人當件數	一人當件數	一人當件數
大審院	判事 一一七	高等法院	判官 一一九
	檢事 一四三	上告部	檢察官 三三
控訴院	判事 七三	覆審部	判官 五三
	檢事 四一		檢察官 四四



地方及區 裁判所		判事	三二三
地方法院		判官	四一五
		檢察官	一〇五五

備考

内地数字ハ昭和十年一月司法大臣官房調査課發行司法一覽表ニ依リ昭和六年乃至昭和八年ノ平均トシ臺灣数字ハ昭和七年乃至昭和九年ノ平均トス

二、高等法院部ノ構成狀況

高等法院ニハ上告部一部、覆審部二部ヲ置キ上告部ハ判官五人、覆審部ハ判官三人ヲ以テ構成ス依テ部ノ構成上ヨリセバ判官定員ハ最少限度ニ於テ上告部五人、覆審部六人計十一人ヲ必要トスルモ現在判官

定員ハ院長ヲ併セ十人ニシテ之ガ配置ハ上告部四人、覆審部六人トセリ

從テ上告部ニ於テハ部ノ構成上常時判官一人ノ不足アルノ外病氣其ノ他ノ事故ニ依リ不足ヲ生ズル場合アリテ之ガ爲ニハ法院條例第八條ノ四第二項ニ依リ覆審部ヨリ轉補シ漸ク部ヲ構成シツツアリ然レ共轉補者ニハ勢ヒ前審干與者ヲ生ズル關係上閑延審理ニ際シ一件毎ニ判官ノ交替ヲ必要トシ其ノ不便尠カラザルノミナラズ上告部判官ノ定員不足ナルニ拘ラズ常時同條ヲ適用シ轉補セシムルガ如キハ適法ナラザルベシ

覆審部ノ判官ハ六人ナルヲ以テ表面上部ノ構成ニ支障ナキガ如シト雖之亦病氣其ノ他ノ事故アル場合ニ



於テハ忽チ支障ヲ生ジ己ムナク法院條例第八條ノ四  
 第一項ニ依リ地方法院ヨリ兼補セシメザルベカラザ  
 ルナリ

三 地方法院部ノ構成狀況

地方法院ニハ合議部及單獨部ヲ置キ合議部ハ判官三  
 人、單獨部ハ判官一人ヲ以テ構成ス現在判官定員ハ  
 院長ヲ併セ四十六人ナル處左ニ示スガ如ク各部構成  
 上充分ノ定員ナキ關係上地方法院判官ハ總テ合議部  
 ト單獨部トヲ兼ネシメ其ノ事務分擔ノ平均ヲ採リツ  
 ツアルモ原則的ニ常時上下兩審相互兼補シ部ノ構成  
 ヲ爲スガ如キハ裁判ノ威信ヲ保持スル所以ニ非ザル  
 ノミナラズ合議部ニ於テ前審干與者ヲ生ズル爲殆ン

ド事件毎ニ交替セシムルノ要アルニ至リ不利不便歟  
 カラザルナリ

各地方法院部別判官配置 (昭和十年三月十五日現在)

計		合議部		單獨部	
		民事二部 判官六人 予備判官二人	刑事二部 判官 兼務(予備判官) 四人	豫審一部 判官 二人	民事三部 判官 二人
		兼務(予備判官) 二人		判官一七人 豫備判官二人	

民事一部

臺北地方法院

臺南地方法院

單獨部		合議部		
刑事一部	民事二部	豫審一部	刑事一部	民事一部
判官	兼判務官	判官	兼判務官	兼判務官
一人	二人	一人	三人	三人

臺中地方法院

計		單獨部		合議部		
兼判務官	判官	刑事一部	民事二部	豫審一部	刑事一部	民事一部
七人	九人	兼判務官	兼判務官	判官	兼判務官	兼判務官
一人	一人	一人	二人	一人	二人	三人

同宜蘭支部

計		豫審	單獨部	
兼判務官	判官		刑事一部	民事一部
二人	一人		兼判務官	判官
二人	一人		二人	一人

同新竹支部

計		單獨部		合議部	
兼判務官	判官	刑事一部	民事一部	豫審一部	刑事一部
二人	二人	兼判務官	判官	兼判務官	判官
二人	二人	二人	二人	二人	二人



備考

一 豫備判官豫算定員八四人ナリ

二 新設花蓮港支部ノ部ノ構成ハ高雄支部ト同様ナリ

同 高雄支部		同 嘉義支部					
計	單獨部	合議部			計	計	
	刑事一部	豫審一部	刑事一部	民事一部			豫審一部
判官 兼務 二三人 同	判官 兼務 二三人 同	判官 兼務 二三人 同	判官 兼務 二三人 同	判官 兼務 二三人 同	判官 兼務 二三人 同	判官 兼務 二三人 同	判官 兼務 二三人 同
二 人	二 人	三 人	四 人	三 人	二 人	三 人	七 人
二 人	二 人	三 人	四 人	三 人	二 人	三 人	一〇 人



参考一

花運港支部設置ニ伴フ昭和十年年度豫算  
 法 院 五、三九九圓

俸 給 二七、九四九圓

目	數量	單位費額	金額
奏任俸給	人		一六、一二九〇
本俸			一、〇四七五
判官	一	一九ヶ月	一、〇四七五
檢察官	一		八、六四〇〇
加俸			二、四〇七五
本俸ニ對シ十分ノ四・六			五、〇八一八
判任俸給			一、八二〇〇
本俸			七、三八七五
合計			二七、九四九〇

目	數量	單位費額	金額
書記	七人	九ヶ月	五、一七一五
通譯	三人		二、二一六二
加俸			四、四三二五
本俸ニ對シ十分ノ六			二、二一六二
廳費			六、四〇二〇
初度調解費			四、七五二〇
普通廳費			六、七五〇〇
特別廳費			九、七五〇〇
內國旅費			五、四二五〇
赴任			二、五〇〇〇
合計			二三、四四五〇

目	数量	單位費額	金額																																								
給仕 小使 渡切 出張 宿直 宿舎 給水 料	一 ヶ 所		<table border="0"> <tr> <td>△</td> <td>△</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一六四</td> <td>一六四</td> <td>二〇〇</td> <td>四八〇</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>五七一</td> <td>五七一</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>二六一</td> <td>二六一</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>五〇九</td> <td>五〇九</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	△	△							一六四	一六四	二〇〇	四八〇					五七一	五七一	〇	〇					二六一	二六一	〇	〇					五〇九	五〇九	〇	〇				
△	△																																										
一六四	一六四	二〇〇	四八〇																																								
五七一	五七一	〇	〇																																								
二六一	二六一	〇	〇																																								
五〇九	五〇九	〇	〇																																								

目	数量	單位費額	金額																																																																																
視察 會議 召集 雇員 備料 事務 延丁 給仕 小使 雜役 被服 延丁	一 八		<table border="0"> <tr> <td>二九二</td> <td>二九二</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>三四二</td> <td>三四二</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>三四二</td> <td>三四二</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>二五〇</td> <td>二五〇</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>三六七</td> <td>三六七</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>九四五</td> <td>九四五</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>四七二</td> <td>四七二</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>五四〇</td> <td>五四〇</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一七七</td> <td>一七七</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>一四九</td> <td>一四九</td> <td>〇</td> <td>〇</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	二九二	二九二	〇	〇					三四二	三四二	〇	〇					三四二	三四二	〇	〇					二五〇	二五〇	〇	〇					三六七	三六七	〇	〇					九四五	九四五	〇	〇					四七二	四七二	〇	〇					五四〇	五四〇	〇	〇					一七七	一七七	〇	〇					一四九	一四九	〇	〇				
二九二	二九二	〇	〇																																																																																
三四二	三四二	〇	〇																																																																																
三四二	三四二	〇	〇																																																																																
二五〇	二五〇	〇	〇																																																																																
三六七	三六七	〇	〇																																																																																
九四五	九四五	〇	〇																																																																																
四七二	四七二	〇	〇																																																																																
五四〇	五四〇	〇	〇																																																																																
一七七	一七七	〇	〇																																																																																
一四九	一四九	〇	〇																																																																																

M-0036



参考一二

花蓮港支部新營工事豫算各目明細書

款 項 目	九 年 度 豫 算 額	十 年 度 豫 算 額	合 計
第二款 營繕費	九六一〇〇	一四九八〇	一、一、〇、〇、〇
第二項 花蓮港法院支部及刑務支庁新營費	九六一〇〇	一四九八〇	一、一、〇、〇、〇
第三目 工事費	九六一〇〇	一四九八〇	一、一、〇、〇、〇
法院支部廳舎其他新營	八七一八〇	七一八〇〇	九、四、三、六〇
初年度	二〇〇〇〇	二五〇〇〇	四、五〇〇
湖解費	二〇〇〇〇	二五〇〇〇	四、五〇〇
假設工事費	一九二〇〇	三〇〇〇〇	三、九、二〇〇
監督費	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	一、〇、〇、〇、〇
及雜費	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	一、〇、〇、〇、〇





第三、法院板橋出張所設置ニ件ヒ書記一人増員

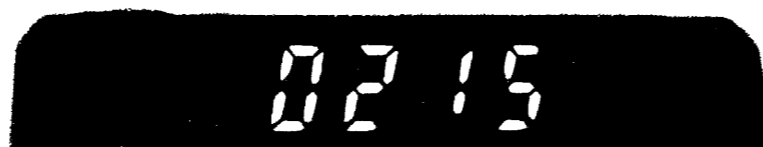
最近本島文化ノ向上ニ件ヒ法律思想頓ニ發達シ一  
面各種取引關係複雑化セルニ件ヒ一般民衆ハ登記  
ニ依リ自己ノ不動産ニ関スル權利ヲ確保シ置クコト  
ノ安全ナルヲ自覺スルニ至リ登記制度ノ必要ヲ愈々  
痛感シツ、アリ而シテ登記ノ申請ニハ必ず當事者  
又ハ其ノ信任セル代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ為サ  
ザルベカラザルニ拘ラズ現在ノ如ク登記所ノ管轄区  
域廣大ニ失シ出頭ニ少カラザル時間ト費用トヲ要ス

ル状態ニ於テハ登記ノ必要ヲ認メツ、之ヲ怠リ急  
ニ不慮ノ損害ヲ招クコトナシトセズ

依テ枢要ナル地ニ漸次登記所ヲ増設スルノ方針ナ  
リト雖昭和十年度ニ於テハ差當リ必要ト認ムル臺  
北州海山郡板橋庄ニ一箇所増設セントス蓋シ海山郡  
ハ人口約十萬人總面積ニ土方里ヲ擁スルニ拘ラズ登記所  
ハ新竹州下桃園街ト臺北市ニ設置セラレアルニ登記所ニ跨リ  
地方行政上種々便宜ヲ欠クノ嫌アルノミナラズ登記申請

人ノ不便甚カラザルヲ以テ新ニ海山郡一圓ヲ管轄ス  
ル登記所ヲ設置セントス之ニ伴ヒ此處ニ配置スベキ  
書記一人ヲ増員セントスルモノナリ

[Faint, illegible vertical text, likely bleed-through from the reverse side of the page]



参考一、板橋法院出張所見込事件数

登記種別	管轄登記所	
	海山郡	海山郡
不動産登記	六六六六、四八三	一九七三
商事會社其他營業目的支店法人登記	五	一四
社團法人、財團法人、業組合、漢業組合登記	九	三二
酒号、未成年者、法定代理人、支配人	一	一
夫婦財産契約登記	一	一
計	六六八〇、六四八三	三〇、二一九
	二〇、二二五	三、〇九九
	一六、六九八	一六、六九八

備考

一、件数及筆数ハ昭和六、七、八、三、十年ノ平均ナリ  
 二、本表ニ依ル書記一人一日處理筆数四、二十リ(書記一人一日三百日トス)

M-0036



参考二、地方法院出張所名稱位置置管轄区域等

名	稱	管轄区域	人口	件数	筆数	書置
臺北地方法院	淡水出張所	臺北州管内 淡水郡管内	五一、六五七	一八五四	三九六四	一
	基隆出張所	臺北州管内 基隆市管内 汐止郡管内	二〇、一八四	五、〇五	三、三〇	二
	新店出張所	臺北州管内 文山郡管内	五九、〇八九	二四四九	〇、三六六	一
	羅東出張所	臺北州管内 宜蘭郡管内 羅東郡管内 蘇澳郡管内	八八、八二八	四、三〇	四、四三三	一
	桃園出張所	臺北州管内 桃園郡管内 鶯歌庄、三峽庄	一六六、五二一	六、三八	四、四三三	二
	中壢出張所	臺北州管内 中壢郡管内 龍潭庄	一三三、四二五	六、七八	三、四三〇	一
	竹南出張所	新竹州管内 竹南郡管内	八八、八七八	三、九七	三、七九	一
苗栗出張所	新竹州管内 苗栗郡管内 大溪郡管内	一七六、九八五	六、五四	一、八七三	二	
花蓮港出張所	花蓮港管内 鳳林支、六研海支、各管内	七七、九三六	三、六〇	二、九三三	一	
玉里出張所	花蓮港管内 玉里支管内	二二、三六四	一、四一	一、一八七	一	
臺東出張所	台東管内	六四、八〇六	六、八三	九、八三六	一	
臺中地方法院	火甲出張所	台中州管内 大甲郡管内	一三六、七一	一、七一	三、〇八	一
	豐原出張所	台中州管内 豐原郡管内	八九、六三六	三、一七	三、三六〇	一
	東勢出張所	台中州管内 東勢郡管内	四二、六七二	一、八六	一、五三〇	一
	彰化出張所	台中州管内 彰化市管内	一八九、二八九	三、六八	二、九六一	二
	員林出張所	台中州管内 員林郡管内	一六六、六六〇	八、五三	〇、一九〇	一
	北斗出張所	台中州管内 北斗郡管内	一三八、四五〇	一、〇六	三、四四五	一
	南投出張所	台中州管内 南投郡管内 集集庄、衛生、置力九番地管内	一〇、三四七	五、六八	三、四八七	一
	竹山出張所	台中州管内 竹山郡管内	四〇、〇三七	一、八三七	五、八八	一



同 同 同 同 同

恆春出張所  
屏東出張所  
潮州出張所  
旗山出張所  
馬公出張所

高雄市内  
高雄市内  
高雄市内  
高雄市内  
澎湖六甲

二九、六八四、九二八、五七三  
一〇、六八一、五六一、四三三、九  
九五、〇一一、三九三、四一〇、四  
七三、一七三、三三三、〇二、二、八  
七五、七五四、四四九、六三〇、一

— — — —

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

埔里出張所  
臺南地方院斗六出張所  
虎尾出張所  
北港出張所  
朴子出張所  
新營出張所  
麻豆出張所  
佳里出張所  
新化出張所  
岡山出張所  
鳳山出張所  
東港出張所

台中市内  
台南市内  
台南市内  
台南市内  
台南市内  
台南市内  
台南市内  
台南市内  
台南市内  
台南市内  
台南市内  
台南市内

五、五十三、三三六、六八七  
九九、六五〇、六七、七六、八  
一三九、〇四〇、一、五六一、五九六  
九八、七七〇、八、二二二、三三  
一四三、九三九、二、四八五、九、八  
一〇七、四二五、七、八八三、三三  
七二、三三三、七、八一、一九、三三  
一三三、五五六、三、九六三、三三、六  
八五、二七七、七、四〇三、二、〇、四  
一三七、三八三、六、三、四、一、六、三、二  
九六、五九九、七、三、四、六、八、八  
八五、四九四、五、三、三、九、九、〇

— — — — — — —



参考三、法院板橋出張所設置ニ伴フ昭和十年度豫算

法院 五、三四四圓

俸給 一、五七六圓

目	数量	單位賞額	金額
判任俸給			一、五七六
本俸	一人	九八五	九八五
加書記俸	一人	九八五	九八五
事務費			三、七六八
國內旅費	普調初會 通達 旅費 給賞		六〇二
渡切員	二人	五七〇	一一四〇
出張所	一ヶ所		三六七
宿舎料	書記二人		六六〇
借家料	六ヶ所		五〇〇
宿直料	一年		五〇〇
道料	一日		二七〇
雑費			一、三七八
合計			一、五七六



法院職員定員令中定員改正關係職員定員現員調

(昭和十年五月十五日現在)

官名	定員	缺員	定員對スル 缺員割合	十年度 増減員	増員	減員	摘要
官名	定員	缺員	定員對スル 缺員割合	十年度 増減員	増員	減員	摘要
地方法院 判官	四三	一人	〇〇〇	四人			
地方法院 檢察官	二二	二人	〇九一	一人			缺員二人ハ目下入選中
書記	一九二	一五	〇七八	八			書記及通譯缺員二十人ニ付テハ 判任官見習二十一人ハ法院十三人 (檢察局八人)ヲ以テ充當ス居レリ
通譯	五一	五	〇九八	三			
判任計	二四三	二〇	〇八二	一一			



2729  
10.7.18

332  
10.7.18  
拓務省管理局

官審第一三號

臺灣總督府法院職員定員令中改正ノ件  
別紙ノ通勅令公布方御詮議相成様致  
度理由書相添此段及稟議候也

昭和十年四月三十日

臺灣總督中川健藏



拓務大臣伯爵兒玉秀雄殿

臺灣總督府





勅令第 號

臺灣總督府法院職員定員令中左ノ通改正

ス

第一條第一項中「判官 奏任 四十三人

レヲ「判官 奏任 四十七人」ニ、

「檢察官 奏任 二十二人」ヲ「檢察官 奏任 二十三人」ニ改ム

第二條中「書記 奏任 百九十二人」ヲ「書記 奏任 二百人」ニ、

「通譯 奏任 五十四人」ヲ「通譯 奏任 五十一人」ニ改ム

ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



理由書

臺北地方法院花蓮港支部設置ニ伴ヒ判官  
二人檢察官一人書記七人及通譯三人、地  
方法院判官負擔件數ノ緩和ヲ圖ル爲判官  
二人、臺北地方法院板橋出張所設置ニ伴  
ヒ書記一人計判官四人檢察官一人書記八  
人及通譯三人増員ノ必要アルニ由ル

